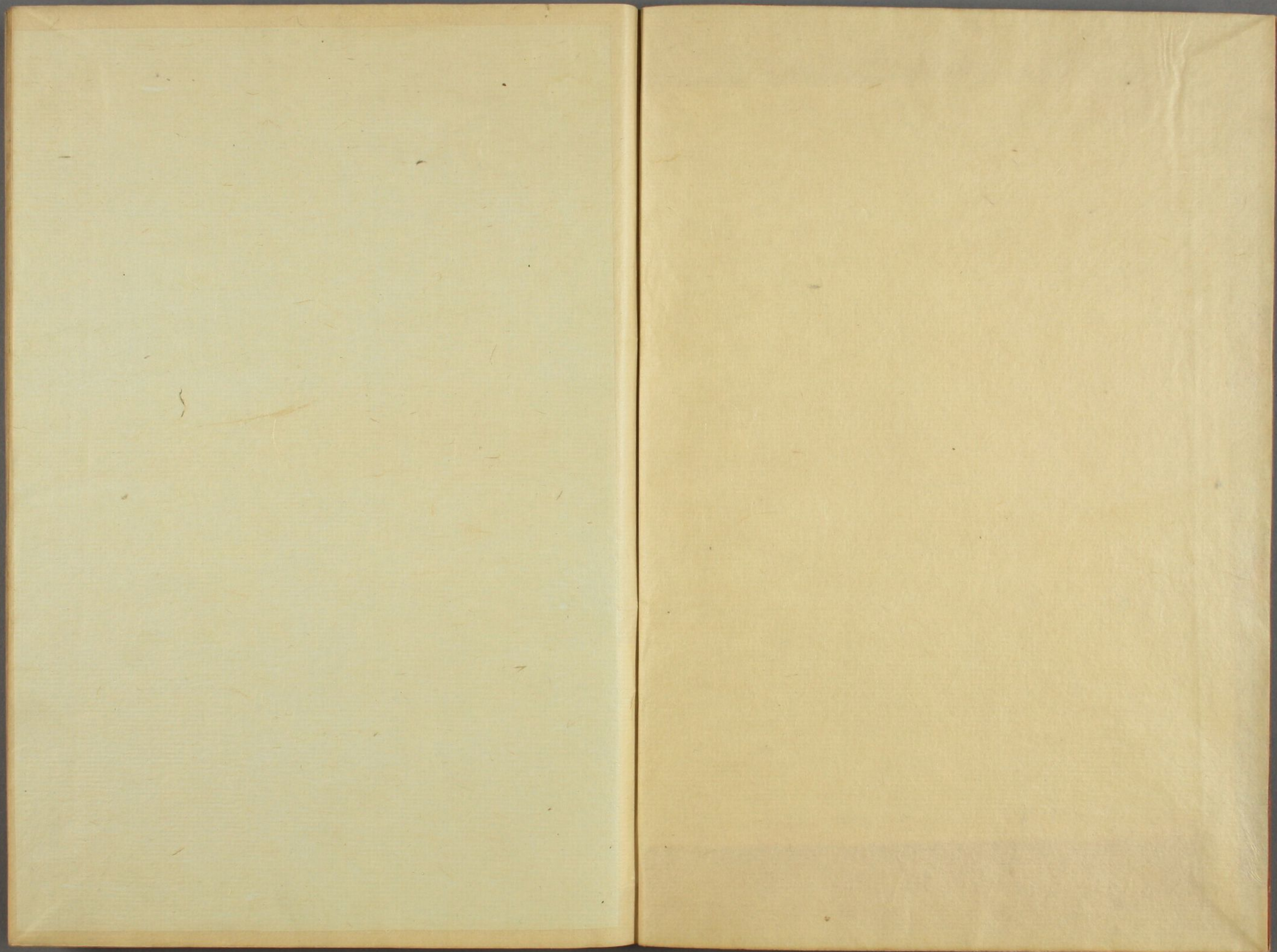


扶桑拾葉集

七八











扶桑拾葉集卷第七

目錄

無名抄序

源俊賴

九月十三夜於前武衛泉亭詠和歌序

同

祝目抄序

藤原基俊

一子傳序

同

大町抄序

藤原為業

後系和歌集序

後原為經





































































こゝにやゝおぼしきものありしに  
思ふに、いふに、我々の御代に  
世百乃、橘政園白と申す、不臣と云ふに、  
中より、いふに、乃村の大通殿、  
乃や、日、地はれ、  
いふに、乃ら、こゝに、はれ、  
我々の御代に、  
と、門、  
と、又、  
こゝに、

世七代を、  
天皇、  
六十八代、  
神武、  
乃、  
と、  
皇、  
乃、  
世、











れこやふもさしけりねん本乃も中  
小乃こもふさこれ葉もくらこえぬ海を  
山乃乃りこも心乃乃らねんかさなす  
あこてねん乃乃れもあけいさくそ海よ  
そんをささきてししれ葉乃乃勝りき  
くこ心事とれりいあきあしか乃集  
の中り、和奇乃乃ら波さる海も色ぬ  
くもこ乃開乃乃免そ海ををし  
きくこ乃上てあさひとれりあさき  
れゆいこ海り海り物かさいさしあさ  
あ乃がれこれあ乃あさあささくれ

く海乃うせせしこ海乃海乃はふさおて  
さぬさうもせんそこりあさきしきささ  
よささひこつねりあささ人乃古乃り  
中り物くし葉きくみなるる形か  
くさしこ色てみゆあさ地あ乃ささ  
みあささあささあさ物くあさささ  
撰集ぬあささあささあさあさ乃集し  
あさあさあさあさあさあさあさあさ  
乃さあさあさあさあさあさあさあさ  
らささあさあさあさあさあさあさあさ  
あ乃あさあさあさあさあさあさあさあさ















わらま松一 冥加あせ後人  
福ん此るる亭をたしとひ

延喜卿内躬恒の病入して養ひる事

いづくもよま乃成りありわらねく  
ちるみよ一の心い香あ

ねみやきりしこまわとをさるる心

静範あるるいある内兼房初代おきて

やうんさうし

五月やこらわ乃わら乃ほしおれ

く一社と乃こちさわらぬれ

こころ乃いさるとあは

大隅守櫻鴻志信郡司北藤と共りかん

うら因よきしゆるさう

若くそ名乃らぬいそくそ也

志もと乃らあそ乃いさえよら

かこらねをしりそあしとて次

空也空人乃う

花とつゆも南無阿弥陀仏といふ人の

はらとこのうんれああ家

きけり武士しし

平貞盛の妻しくされりれ陣有と

つて将門のあはれりりり乃哥























































けいそやまむく二日らんそいぬが  
文乃いあこく路えいりねとせむりく  
さまひりしとせしとせしひいさいさ  
路を通りぬるもれいを初てこり付  
ひてゆき一路くんは海にたぬき一  
そくつりくす列乃路と葉のれい  
やあくらもいりぬとそれこ家根り作道  
こあつこい、伊路乃路こ家根り作道  
非恵こあつこい、伊路乃路こ家根り作道  
つ路くはい、なふ事こあつこい、伊路乃路  
路のあつこい、なふ事こあつこい、伊路乃路

えい、伊路乃路こ家根り作道  
一ゆりせしとせしひい事あつ  
路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
い、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
あつこい、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
作者のこりあつこい、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
えい、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
なふ事こあつこい、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
こりあつこい、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
あつこい、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道  
伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道、伊路乃路こ家根り作道















扶桑拾葉集卷第八

目錄

嚴勝御幸此道乃記

高倉天皇外遊此記

源通親

同



扶桑拾葉集卷第八

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

叡德御幸北道乃記

源通親

るるのくやうしうをりて治承四年下り毛  
るるぬまはれしうのせりしうさかきとる  
はりしうさかきとる世はるるいしうは  
乃御幸ありしうはりしうはりしうは  
ゆりしうはりしうはりしうはりしうは  
るる其日ありしうはりしうはりしうは  
るるしうはりしうはりしうはりしうは







































































































































しるしを記すのよしをさするる事  
れん細きなりしをさするる事  
しるしを記すのよしをさするる事  
まじりたる事

おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事

おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事

おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事  
おのれをさするる事  
まじりたる事











毛のぬれをさらぬるらるる。

おもむきや後ゆら乃ら後を後を

あふさあふさ袖れしは

法をさしよゆりやゆあを津に

あけの香をさしよゆりやゆあを津に

いんれららまのまをさしよゆりやゆあを津に

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

心はりしはさしよゆりやゆあを津に

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは

あふさあふさ袖れしは



あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を

あつたそらに雲の影を  
照らすあつたそらに雲の影を



































と記すはかみなりわあそ記すはほほほ  
と記すはほほほと記すはほほほ

入道大納言もまらつとてまほほほ入道  
はなはだなほほほほほほほほほほほ  
となくれしもおのあつせし終へ

君のせし終らふ終へれもまほほ  
人さくまらしぬそあうれ

ん院へまらあそ終へるなり御法なり  
と記す終へしししししししししし  
ししし終へるしししししししししし  
ししししししししししししししししし  
ししししししししししししししししし

あそ終へし

とさう終へしとさう終へしとさう終へし  
とさう終へしとさう終へしとさう終へし

あそ終へしとさう終へしとさう終へし  
ししししししししししししししししし  
とさう終へしとさう終へしとさう終へし  
とさう終へしとさう終へしとさう終へし

とさう終へしとさう終へしとさう終へし  
とさう終へしとさう終へしとさう終へし  
とさう終へしとさう終へしとさう終へし  
とさう終へしとさう終へしとさう終へし







と移る海を渡る

龍吟若留長笛 藥寢古衣 獨駐有  
あ積ま所の好乃何とれと此のあま  
とる記まれに先よとる

法華をよみし人乃とるをゆゑ ぬるに  
復るよゆる女房れははりて

はもひきやんもこの急乃ゆま  
こよつあひんまをたの海  
はまは法にれとせると

春のあつたよふにれはり  
いふあひもいふまをたの海

とよひの光よとるまはる  
積るよとる生死乃日れはり  
とるん  
とるん詩も思あはる

とるあつたよふにれはり  
あつたよふにれはり  
あつたよふにれはり

は物あつたよふにれはり  
あつたよふにれはり  
あつたよふにれはり



色あはれなればもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

いかにあはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ

あはれなるかたはるるもあはれ  
あはれなるかたはるるもあはれ



おつゝもさうは——わらわは、こゝろの  
ん、ほろ／＼とほろ／＼と、こゝろの  
ま、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
あ、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
ま、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
は、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
も、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、

ら、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
あ、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
は、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、

ら、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
あ、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
は、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、

ら、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
あ、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
は、こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、  
こゝろのま、こゝろのま、こゝろのま、



ふかたをいふつきく元續といふたうふんぬ  
西陵といふ所よりいふれといふ詩よを  
愛告別云千里よりいふ江南一の雲哉  
こゝとほくくーおひんあもせう後ある  
ふと袖日あまふ

ねををさや人あまれねるやん中  
君のあまらぬうを命いふ  
本と橋よりいふれうを自らの命とあつて  
もろくもろくをいふいふ人あまらぬ  
こゝれ女をいふとあつてはあつて  
いふといふいふいふいふ

はな事

こゝろをいふれいふていふて  
いふもいふこれいふもいふも  
六つれいふれいふれいふれいふれ  
ていふれいふれいふれいふれいふれ  
あまらぬいふれいふれいふれいふれ  
あまらぬいふれいふれいふれいふれ  
月乃あつていふれいふれ二十里いふれいふれ  
いふれいふれいふれいふれいふれいふれ  
月乃あつていふれいふれいふれいふれ  
いふれいふれいふれいふれいふれいふれ



かゝるにやの世に  
くらまのりしをんし  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あ

あはれなるに











んくう記らるれば先く色んくうあて  
思をいほることあつて

ねむいあつてこころあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

はのくに乃好のゆゑあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

詩、世事 従今口不言禁中自是心長絶  
と、事と思をあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

果院乃とれあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



日ごとくあらはし給ふ事なきは  
乃ち世にあらはし給ふ事なきは  
あつたる事なきは

あつたる事なきは  
あつたる事なきは

十四年八月二十日  
あつたる事なきは

あつたる事なきは  
あつたる事なきは

四月一日

あつたる事なきは  
あつたる事なきは

あつたる事なきは  
あつたる事なきは

あつたる事なきは  
あつたる事なきは

あつたる事なきは  
あつたる事なきは



後く積る也たましくあまふらふらふらふら  
うあらうの西丸をいかにして日々に  
仕事もあつて十日のあつていふこと  
ゆゑにこのうらひにさうさうさうさ  
やうに盧山といふことらうよ慧遠と  
いふはた人なりとみまの務らうと  
いふはた人なりとみまの務らうと  
あつて積るもこのあつて積る人なり  
よらうの積るはははははははははは  
じもあつて

らあつてはははははははははは  
いふはた人なりとみまの務らうと  
あつて積るもこのあつて積る人なり  
よらうの積るはははははははははは  
じもあつて

はははははははははははははははは  
後憲の法よりとれあつて積るもこの  
院くまの法よりとれあつて積るもこの  
ふまに何の法よりとれあつて積るも  
あつて積るもこのあつて積るもこの  
れ回とまの法よりとれあつて積るも











































